

診療所での耳管開放症の 対応



結城 和央

小川佳伸(豊中市)、芝埜彰(済生会吹田病院)、
大村正樹(大村日帰り手術センター)

関西中耳臨床研究会 2010/8/21

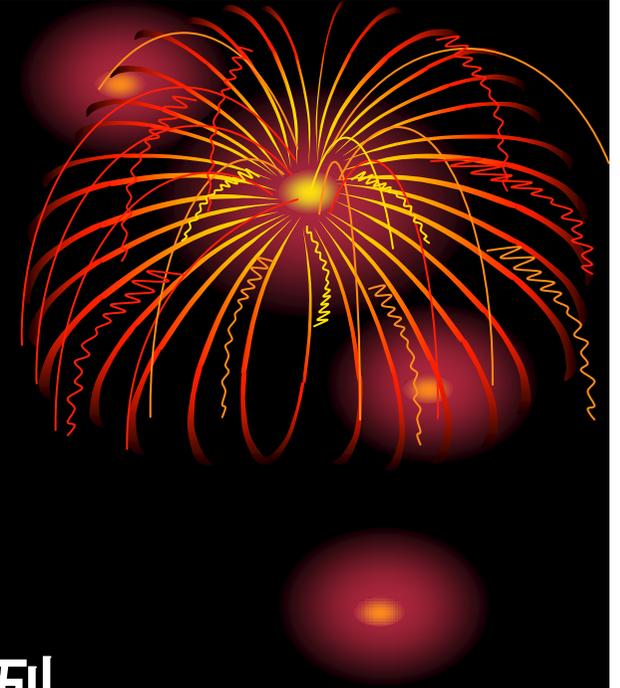
1. 耳管開放症は意外に多い

2. 総論：症状、成因

3. すぐにできる検査法

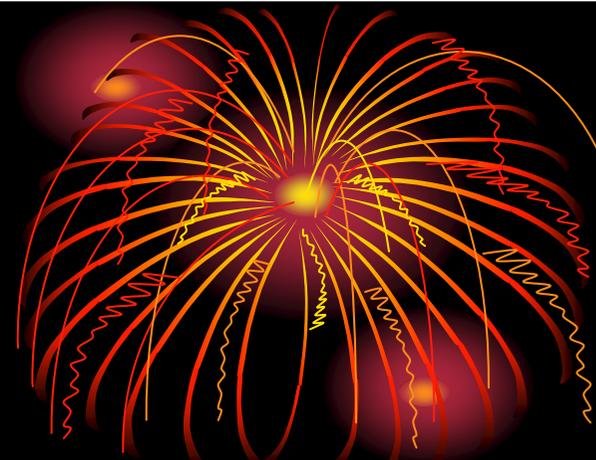
4. 私の行っている対処法・症例
鼻症状治療の紹介

5. 要注意の“脆弱性耳管”
(鼻すすりロック型耳管開放症)



狭窄か開放か？

- 「鼓膜陥凹」を見たら・・・
- 鼓膜陥凹
≠ 耳管狭窄
- 狭窄症と間違われることもある



2ch「耳管開放症スレッド」より



名前：病弱名無しさん

地元の耳鼻科に長いこと通ってたけど一向によくならず
耳閉あって行くと、医師は通気の準備してるし??
「その通気をしたら余計ひどくなる！」と言ったんだけど
わかってもらえず(涙)
しかし、難治病なのね…

名前：病弱名無しさん

>>75

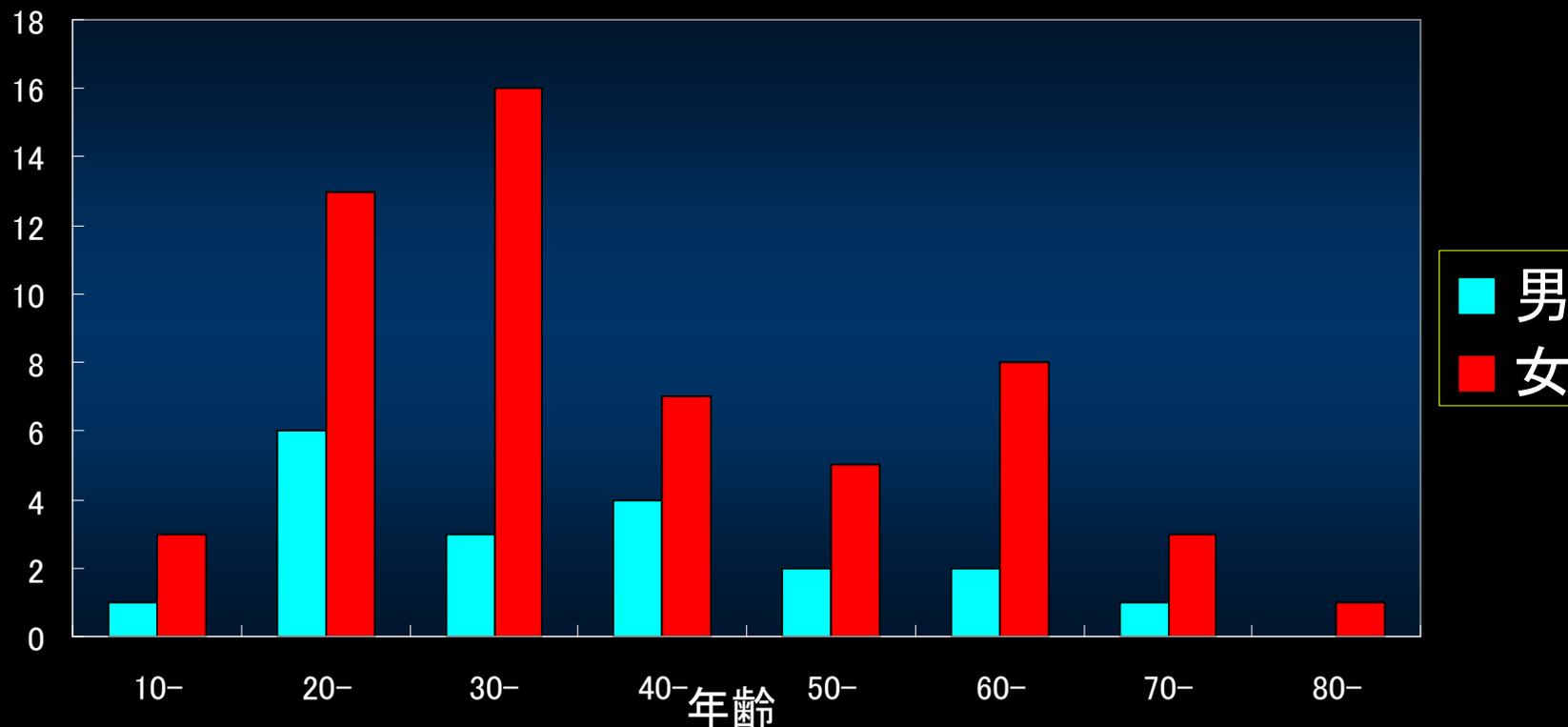
辛いですね。

治らないと思いつつ、たまに見かける完治したり、ほとんど軽快した人の記事を見ると、あがきたくなってしまう。

たしかに、もっと辛い病気は、星の数ほどあるかもしれませんが、ぎりぎり生活できるところが、逆につらいところのような気がします。

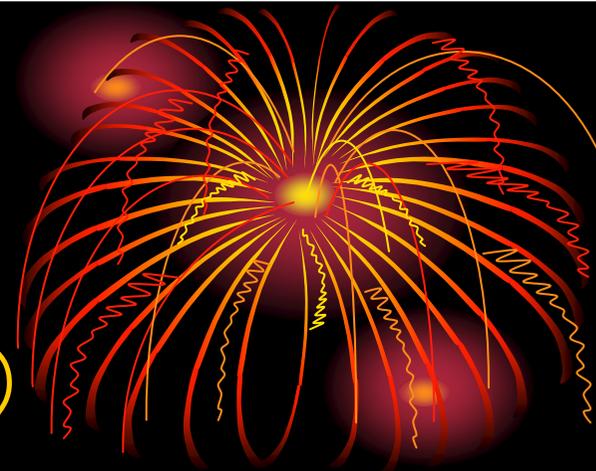
意外に多い耳管開放症

- 一般成人の**5.7%**が開放状態(小林ら)。その他、**0.2-6.6%**との報告あり。
- **2007-2010** のぞみ耳鼻咽喉科：**75例**



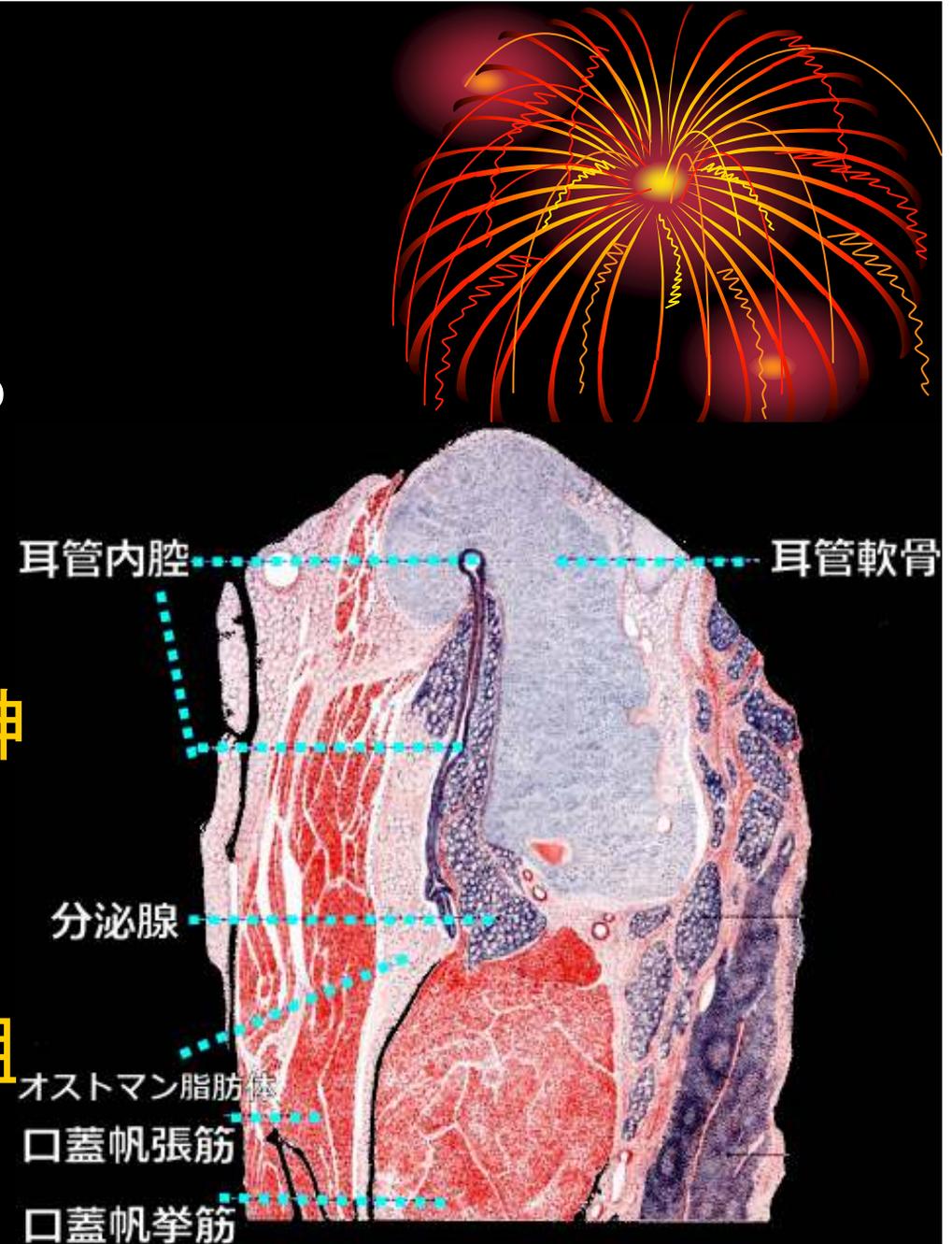
症状

- 耳閉感(耳抜きしても治らない)
 - 自声強聴、呼吸音の聴取
 - 症状は朝軽く、夕方にかけてひどくなる
 - 前屈、仰臥位にて症状が軽減する
 - めまい
-
- 鑑別: 耳管狭窄、メニエル病、肩こりなど



成因

- 体重減少
→オストマン脂肪体や
口蓋帆張筋の萎縮
- 妊娠
- 自律神経障害(交感神経)
- シェーグレン病
- 先天的な軟骨・筋肉組織の形態異常

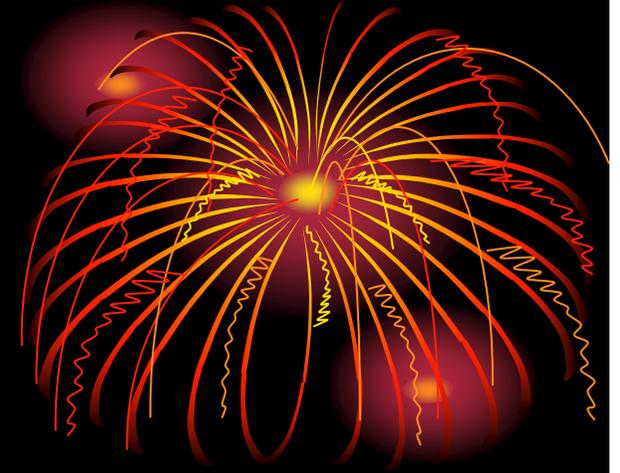


すぐに出る検査法

- **Valsalva法**

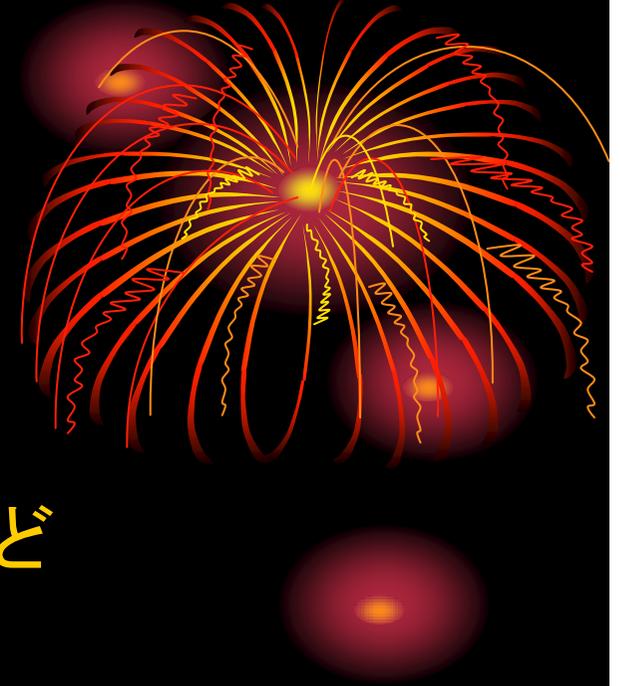


- やめた直後の鼓膜の状態：
 - 膨隆したまま: 軽症か、偽陽性
 - 膨隆した鼓膜が元に戻る: 確実

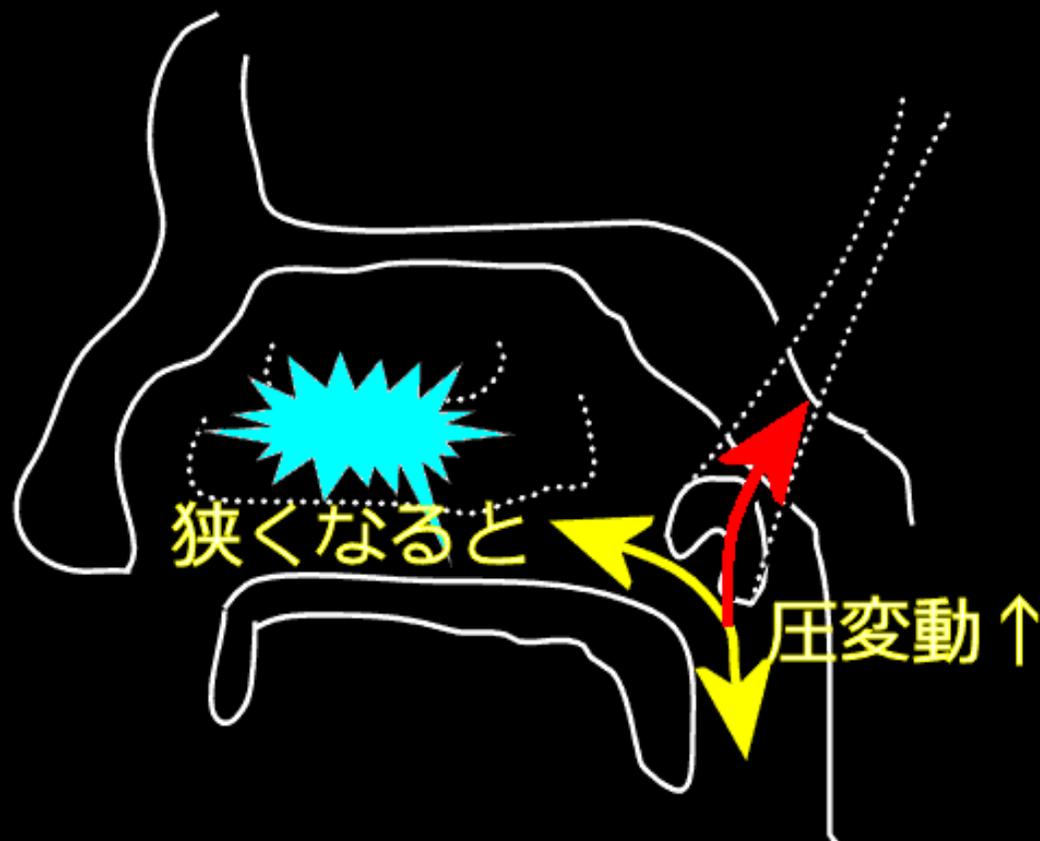


保存的治療法

- 前屈、体重増加、スカーフ法など
- 薬物療法：
漢方薬：加味帰脾湯、補中益気湯など
ATP(アデホス)
- 耳管内薬液注入：ルゴール、小川氏液、**Bezold**末など
- 鼓膜にテープを貼る
- 生食水、希塩酸水の点鼻
- アレルギーや副鼻腔炎など鼻疾患(鼻閉、鼻)のある人には抗アレルギー薬や抗生剤で治療



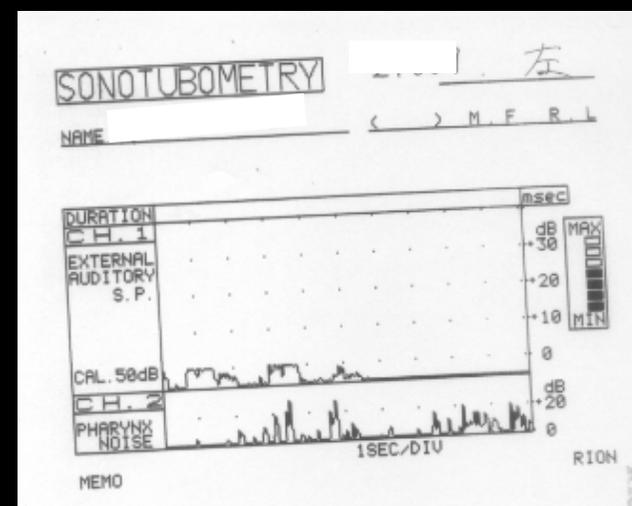
理屈



- 鼻腔気流インピーダンスを下げれば、耳管への影響は少なくなるはず

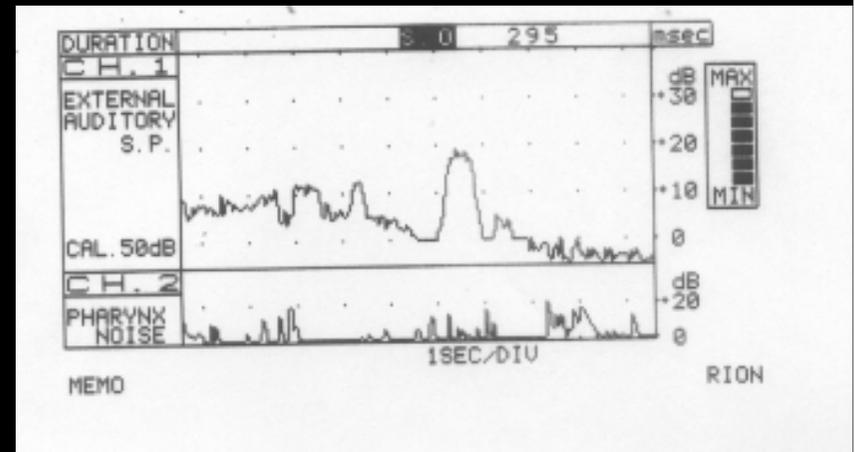
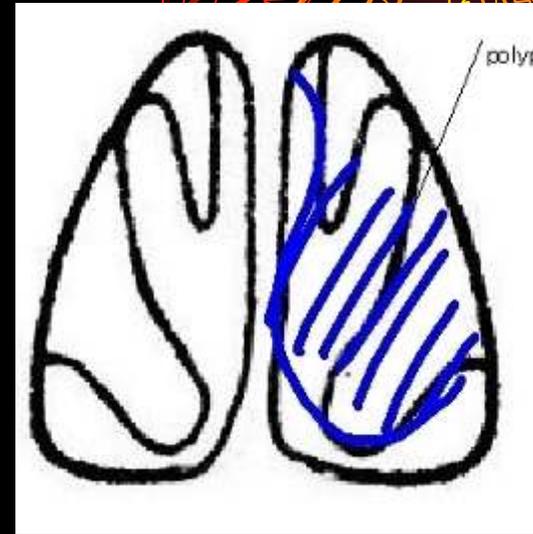
症例 鼻茸・アレルギーを伴った例

- 78歳女性
- 5年以上前から左耳閉感が、数時間、間欠的に起こる
- 週2, 3回の通気治療を受けていたが改善せず来院
- 聴力: 両側高音低下のみ
ティンパノグラム: 両側A型



治療経過

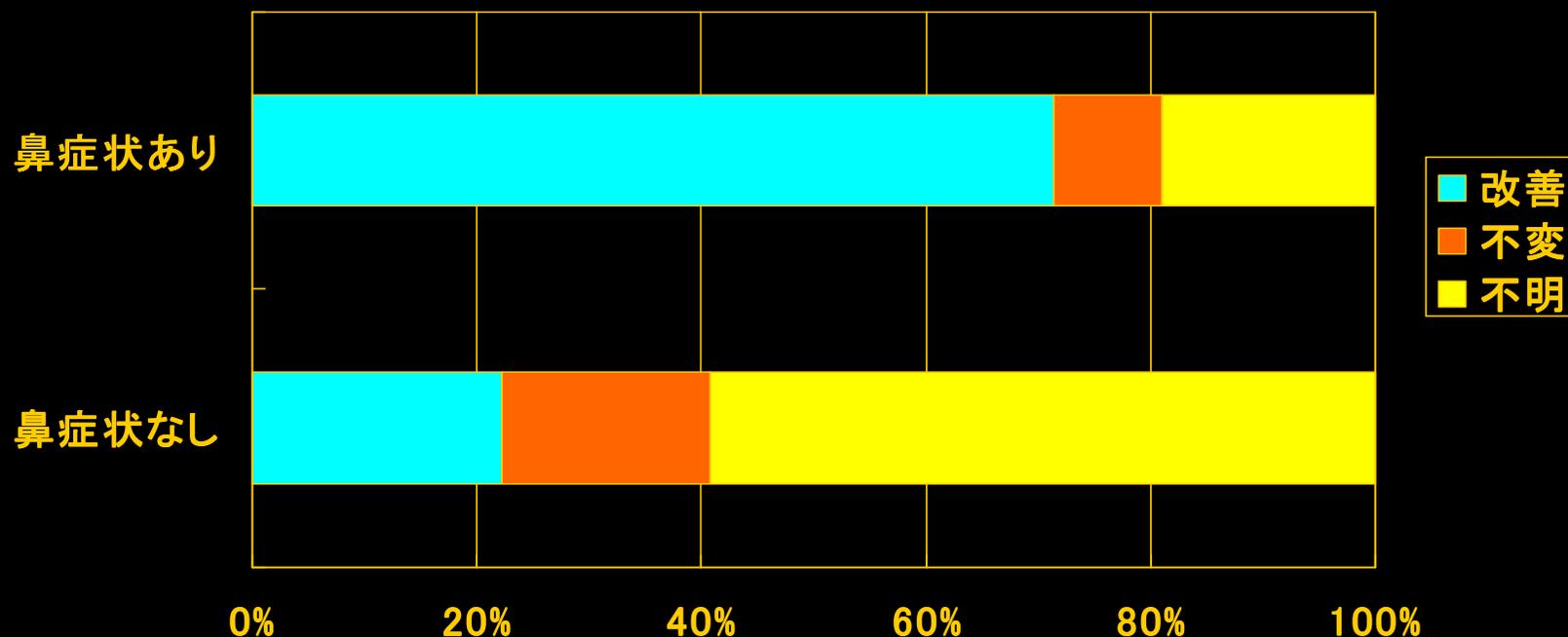
- 左鼻にポリープ
- 漿液性鼻汁が多く、鼻をよくかむとのこと
- **RAST**でハウスダスト、ダニ陽性
- 治療:
初回左耳管にルゴール液注入。以後耳管通気はせず
オノン、アレグラ、フルナーゼ
点鼻を処方
- 1ヶ月間自覚症状改善している



鼻症状を伴う耳管開放症例 (2007-2010年 のぞみ耳鼻咽喉科)



- **75例中21例(28%)**に鼻症状あり
- **21例中15例(71%)**が自覚症状改善
(1ヶ月以上自覚症状が気にならなくなった症例を「改善」とした)

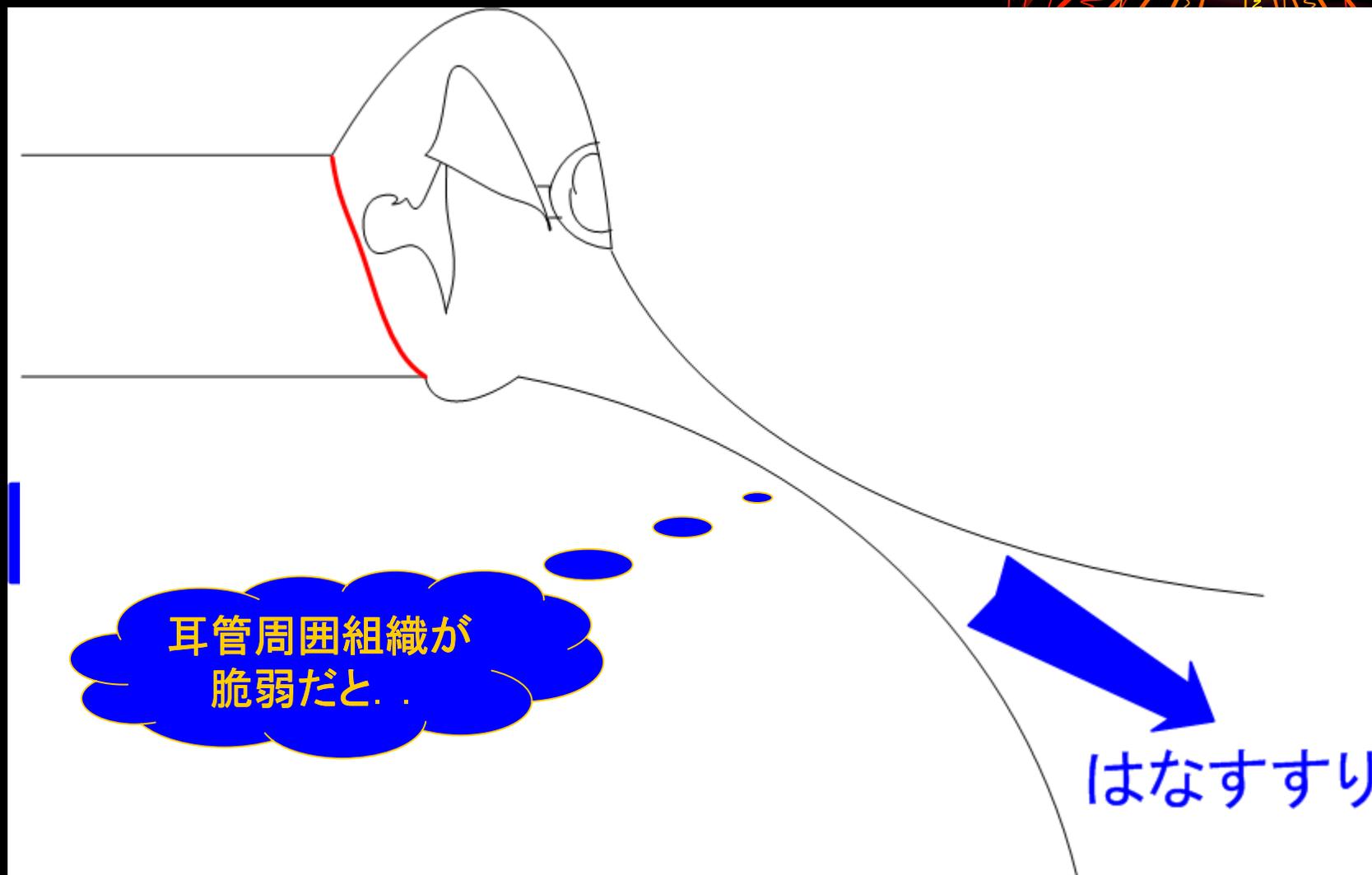


私の行っている治療法

1. 鼻閉や、鼻汁がないかみて、あればこれを治療
2. 体重減少の原因を特定し、あればそれを治療
(甲状腺機能亢進、摂食障害、褐色細胞腫、食道癌の経験あり)
3. 症状にあわせて、加味帰脾湯か補中益気湯内服、適宜**5-10**倍希釈のルゴール液を耳管内注入
4. 不変なら、症状があるときに前屈やスカーフ療法で対応してもらう
5. 「脆弱性耳管」で、弛緩部陥凹や癒着がきつければ、真珠腫がないか定期的にチェック。
場合によっては**Tubing**で様子を見る (耳閉感
は悪化するが)

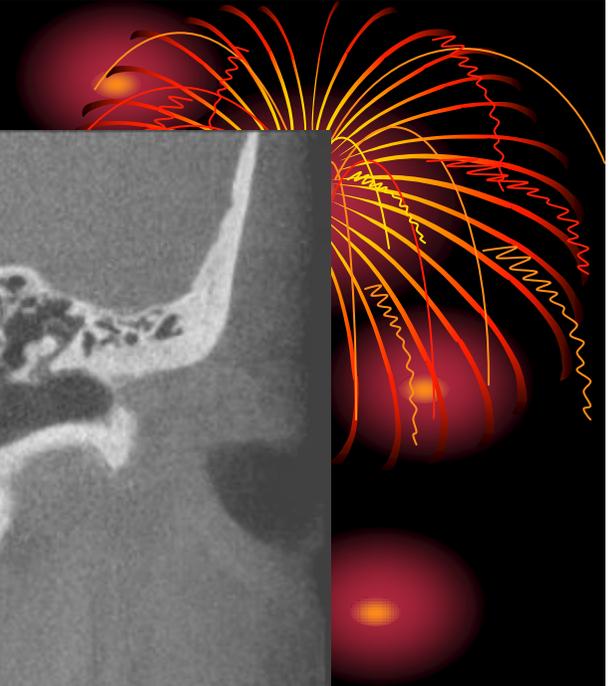
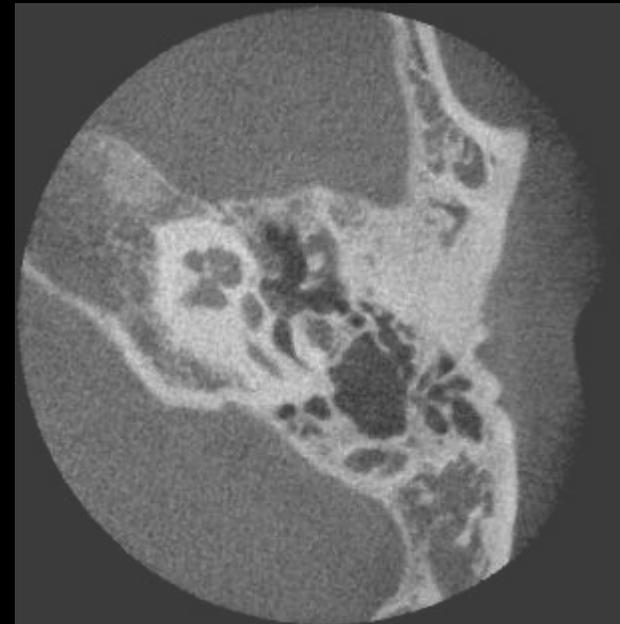


要注意の脆弱性耳管 (鼻すすりロック型耳管開放症)



症例：真珠腫合併の脆弱性耳管

- **35歳男性**
- 幼少時から感冒の度に滲出性中耳炎になるとのことで耳管通気に通っていた
- 以前から鼻すすりで耳閉感が改善
- 最近、血性耳漏があり来院



まとめ

- 耳管狭窄症と間違えられる場合がある
- **Valsalva**法が診断に有効
- 鼻症状があれば、それを治すことで改善しやすい
- 脆弱性耳管患者は真珠腫、癒着性中耳炎などの発生に注意を要する

